



大船渡の
未来は
みんなで
つくる

ゆうこだより

佐藤優子
プロフィール

1974年7月31日生 日頃市町出身・現在大船渡町下平在住
【経歴】日頃市小学校・日頃市中学校・大船渡高校・東北学院大学経済学部卒業、衆議院議員秘書、NPO法人職員などを経て、(株)カメラ社中を起業。2020年5月から大船渡市議会議員、現在2期目
【議会】・議会運営委員会 副委員長 ・教育福祉常任委員会 委員 ・市政調査会 会長
・市民と歩む議会機能向上特別委員会 副委員長／定数等検討部会 部会長

2026年
10月
Vol.19

ゆうこの毎日 2026年7月～9月

大船渡・盛町の 夏まつり 今年もにぎやかに！

今年も市内外、たくさんの交流がありました。大船渡夏まつりの道中おどりは、今年も愛知と大衡・金ヶ崎からトヨタグループの社員さん約40名がご参加。盛町灯ろう七夕まつりには、愛知県から安城学園のみなさんがお越しくださいました。そして、今年4年目となる「みんなでおどっぺし！おおふなと」は両夏まつりの道中おどりに、楽しく参加しました。



大船渡・海を愛する会



トヨタグループのみなさん



みんなでおどっぺし！
おおふなと



愛知県安城学園のみなさん

市政への疑問・質問、地域での困りごとなど、お気軽にお聞かせください！

事務所：大船渡市大船渡町字下平 70-1

電話：090-7283-0348

E-mail：yuko.ofunato@gmail.com



8月14日■綾里の三陸総合運動公園で開催された、全力サポート主催の若者交流イベント「盆野球大会」へ



8月15日■8年ぶりに復活した、日頃市町の盆野球大会へ。応援だけのつもりが、まさかの代打で出場！



7月5日■熟年交流会は70歳以上の方を対象にした感謝と敬意を込めた町内会のお祝いの会。芸達者が多く、毎年にながやかです。歴代後援会長さんと。



大船渡山林火災伝承施設 「綾里ビジターセンター」

7月16日■大船渡市大規模林野火災の教訓と記憶を伝えようと、山海畑の阿部君が館長となり設置。館内では当時の写真や延焼要因などをパネルで紹介。



8月8日■本増寺の文上人ご案内で、東日本大震災の復興支援を目的に立ち上げられた、筑波大学の学生団体 Tsukuba for 3.11 の学生さんが訪問してくださいました。



8月11日■大船渡高校を卒業したばかりの大学生が企画した「座談会」。自分たちの未来や地域を客観的に見つめ、前向きに進もうとする頼もしさを感じました。



DENSO Crafting the Core

金ヶ崎・株式会社デンソー岩手

8月27日■大船渡の夏まつりに参加くださった鈴木社長から「ぜひ見学に！」とお声がけいただき、宮崎議員とともに見学へ。「ものづくりはひとづくり」



9月6日■うみねこ子ども食堂今回もたくさんの皆様からの温かなご協力のおかげで、お弁当配布会を実施できました。ありがとうございました。



9月12日■盛駅で開催、三陸鉄道・JR・岩手開発鉄道「3つの鉄道まつり」。行政相談委員さんのブースでは、その役割についていろいろとお話を伺いました。



愛知学泉大学学生会の みなさん

9月26日■学園祭で「大船渡さんまつり」を開催するため、さんまの焼き方を学びにお越しくださいました。さんま焼き師・師範代の佐藤さんからご指導を！

人口減少のなかで、行政と地域の役割をどう組み直すのか

【ゆうこの視点】 人口減少が進んでも、安心して暮らし続けられる地域をどう支えていくか。そのための「協働まちづくり」だと考えます。地域では、1人でいくつもの役割を担う方も多く、行政からの依頼による事業にも重複が見られます。今後も地域を支えていくには、担い手の努力に頼り続けるのには限界があります。地域の仕組みを変えるこの機会に、行政も業務の棚卸しを通じて、地域との役割分担や自らの組織のあり方を見直す必要があると思います、質問しました。



市が進める「協働まちづくり」と「地区センター移行」

今後、人口減少や少子高齢化により、地域も行政も、これまでと同じ活動やサービスを続けることが難しくなります。市は、行政が担うべき役割を果たしながら、地区と対等の立場で協力・連携し、役割を分担して、協働のまちづくりを進めます。

その仕組みの一つとして、地区公民館を「地区センター」へ移行します。



- ▶担い手：住民主体の「地区運営組織」
 - ▶引き継ぐ機能：生涯学習や地域活動
 - ▶広がる活用：福祉・交流・地域課題の解決など、住民の自主的な活動の拠点に。営利活動も可能となる。
- 《移行時期》地区の希望に応じ、令和9・10年度のいずれかで移行する案が示されています。
- 雇用・労務管理、施設管理、組織内の合意形成などに準備が必要との地区の声を踏まえたものです。

地域助け合い協議会の現状 支え合いの仕組みを、どう続けていくのか？

- 優子** II 地区で進めてきた助け合い活動。成果と課題、今後の方向は？
- 答弁** サロンや居場所づくり、ごみ出し、草取り、買物送迎など、各地区で支え合い活動が広がってきた。一方で、担い手の高齢化・減少、地区による取組の差が課題。今後は、高齢者だけでなく、子ども・障がい・生活困窮なども含めた「地域共生社会」を見据え福祉・医療・市民協働・交通・商工など関係部署の連携を強めながら、体制を見直していく。
- 優子** 地区運営組織と助け合い協議会、役割や担い手が重なっていないか？
- 答弁** 設立目的は異なるものの、構成員や構成団体、活動内容が重なる部分も多い。地域の負担軽減の観点から、今後の在り方を横断的に検討していく。

ゆうこの用語辞典

「地域助け合い協議会」

高齢化が進む地域において住民同士が支え合い、住み慣れた地域で安心して暮らし続けられる体制（地域包括ケアシステム）をつくるための協議組織。国の介護保険制度に基づく協議体。大船渡市では、役割に応じて「市版」と「地区版」の2層体制で整備・運営されています。



地域政策の全体設計 地区の仕組みを変える。では、行政は？

- ① 行政の業務と役割を整理し、地域と共有を！
- 優子** 行政も地域も担い手が限られる。各部署が地域に求める役割や共に取り組む業務を洗い出して役割分担を明確にし、福祉や防災など、部署を越えて一体的に進めるべきでは？
- 答弁** 地区運営組織の活動と並行して事業を整理し、市民協働課を中心に関係部署との連携を図る。高齢者の生活・移動支援や防災など、地区と意見交換し、理解と協力を得て進める。
- ② 協働の担い手は地区組織だけではない！
- 優子** 今の協働まちづくりの指針は、地区運営組織づくりとセンター移行が中心。地区のみならず市民・NPO・企業なども協働の主体に位置付け、それぞれの役割や連携を示す、市全体の協働の指針を新たにつくるべきでは？
- 答弁** 現在の指針では、市民活動団体やNPOとの関わりが十分に見えていない。これらとの連携も含め、指針の見直しを検討する。
- ③ 地域とともに行政も変わる改革では？
- 優子** センター化は目的ではなく手段。今回の地区の変革は、行政と地域の在り方を組み直す大きな行政改革では？行政側の整理を後回しにしたまま進めれば、後から「あれも、これも地域で」と負担が増えかねない。今こそ行政業務を棚卸し、「選択と集中」を進め、何を行政が担い、何を地域と一緒に担うのかなど、明らかにすべきでは？
- 市長** 大きな行政改革と認識している。センター化自体が目的ではない。市民との対話を重ね、地域の実情に合った持続可能なまちづくりを進める。



議会の様子は
大船渡市議会
公式
YouTube



令和7年度 決算審査特別委員会での主な質疑 9月 17・18 日

起業支援	まちなか商店街起業支援事業、対象地域の拡大を求めたところ、市は市内全域を対象とする方向で見直しを検討するとの答弁。
子どもの発達支援	放課後等デイサービスの受け入れ不足を確認。民間サービスであるが市は人材確保などについて事業者と対応を検討するとの答弁。
医療的ケア児	令和7年度スタートの家族の休息を支える在宅レスパイト事業は2世帯37時間利用。希望に応じた支援者の確保が課題との答弁。
蕃石海岸	レストハウスの事業者の早期確保を要請。市は施設を存続させる方向で検討しているとの答弁。
魚市場	水揚げ減少と返済負担を踏まえ、経営戦略の見直しについて、市は改定に向けて検討するとの答弁。

市民と歩む議会機能向上特別委員会

2年間、定数等検討部会の部会長として検討を重ね、市民の皆さんの意見も踏まえ、議会としての結論をまとめました。

▶ 議員定数 20人→18人 人口減少を踏まえつつ、地域の声を議会に届ける役割と、審議に必要な人数を確保するため。

▶ 議員報酬 月32万円→37万円 23年間据え置いた報酬を見直し。議員には厚生年金がなく、国保・国民年金などを自己負担する実情も踏まえ、現役世代も議員を目指せる環境へ。

*なお、議員報酬と政務活動費は、市長が諮問する大船渡市特別職報酬等審議会の答申を踏まえ、条例改正により決定されます。

【ゆうこの視点】この2年間、議会の体制を見直す議論に多くの時間を費やしました。議会改革も大切ですが、市民の声を聴き、市政課題の解決に取り組むことが大事と考えます。見直しには相当の時間を要するからこそ、人口減少の先を見据え16人も選択肢と示しましたが、結論は18人。今後は再び「ゆうこ・あるく」に力を注いでいきます。